

平成 19 年 10 月 15 日

関係機関長および関係各位

京都大学防災研究所長
石原和弘

教員の公募について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当研究所は「災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究」を目的とした全国共同利用の研究所であり、5 研究部門・6 附属研究センターによって構成されています。

このたび、下記の通り教員を公募することになりました。つきましては、ご多忙中の所、まことに恐縮でございますが、関係各位の皆様方にご連絡いただくとともに、適任者の応募についてよろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 公募人員： 准教授 1 名
2. 所 属： 総合防災研究グループ 社会防災研究部門 防災技術政策研究分野
3. 研究教育内容： 地球環境や社会環境の変化を考慮しつつ、わが国あるいは海外諸国の自然災害の防止軽減のための技術論及び政策論を展開する。特に、水循環・水環境に関わる災害事象とその将来動向を理工学的立場と社会科学的立場の両方から捉えて解析する手法や理論を開発し、持続可能な社会実現のためのリスクマネジメント・危機管理政策に応用する。国内では琵琶湖・淀川流域や利根川流域など、海外では大陸河川・国際河川といった比較的大きな流域を研究フィールドとする。また、京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻における教育、研究指導を行う。
4. 任用時期： 平成 20 年 4 月 1 日
5. 応募資格：
 - ・博士の学位を有すること。
 - ・国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
 - ・上記研究教育内容に関連する分野において優れた知識、能力、研究実績を有する者。なお、学会活動等において国際的リーダーシップを発揮できるとともに、外国人留学生の研究指導において高い能力を有することが望まれる。
6. 提出書類： 次の(1)～(6)一式
 - (1) 履歴書
 - (2) 研究業績一覧(審査付き論文とその他の論文、著書、論説、報告などに分けしたものの一覧)
 - (3) 主要論文別刷(コピー可) 5 編
 - (4) 研究業績の概要(A4 用紙 3 枚以内。説明図等を適宜含めて良い。)

- (5) 着任後の研究教育における計画及び抱負
(A4 用紙 5 枚以内。説明図等を適宜含めて良い。これまでの自身の実績を踏まえてどのような貢献を行うか、応募者の考えを示すこと。)
- (6) 推薦書 2 通 (推薦者の連絡先を明記されたい)。推薦書が添付できない場合は、応募者について意見を伺える方の氏名と連絡先をもって換えてもよい。

7 . 応募期限 : 平成 19 年 12 月 17 日 (月) 【必着】

8 . 書類提出先 :

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学宇治地区事務部
防災研究所担当事務室長 麻田 茂 気付
社会防災研究部門 防災技術政策研究分野 准教授候補者選考委員会 宛
(封書の表には「教員応募書類在中」と朱書きし、郵送の場合は書留にすること)

9 . 問い合わせ先 :

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学宇治地区事務部
防災研究所担当事務室長 麻田 茂
社会防災研究部門 防災技術政策研究分野 准教授候補者選考委員会
Email: asada@uji.kyoto-u.ac.jp
(封書または電子メールに限る)

10 . その他 :

応募書類に含まれる個人情報は、選考および採用以外の目的には使用しません。

社会防災研究部門の概要

1. 研究目的及び研究内容の概要

社会防災研究部門は、下記の4研究分野で構成されており、災害に強い生活空間、都市、地域の実現のための総合防災に関する方法論の構築を目指し、社会の発展・複雑化とそれに伴う災害の複合化過程の科学的な分析・予測、現代社会の災害に対する脆弱性やリスクの総合的診断、ならびに安全性と快適性を備えた文化的で持続可能な社会構築のための防災設計・防災計画・災害マネジメントの技術や方法論の研究開発を推進している。

都市空間安全制御研究分野

安全・安心なまちづくりのための技術と方法論の開発を行う。特に都市空間の大地震による危険度評価法の研究とともに、安全性と快適性を備えた質的に高度な生活空間を実現するための空間安全制御手法に関する研究を行う。

都市防災計画研究分野

都市に潜在する災害危険の評価および被害軽減対策に関する研究を行う。特に、都市域大地震時の人的・物的損失リスク評価手法、同時多発的地震火災の延焼予測手法の開発と損害リスク分析、住民避難避難性予測および避難安全計画、および歴史・文化都市の都市環境・景観の保存・創生と調和する都市防災計画手法に関する研究などを行う。

防災技術政策研究分野

時空間モデリング、計算機集約型分析、リモートセンシングなどの領域における新技術を考究し、災害事象の監視・予測精度向上、リスクマネジメント・危機管理政策のために応用する。また、地球規模から流域規模の社会変動と水循環・水災害の相互作用を解析し、持続可能な社会実現のための政策展開、国際防災戦略に関する研究を行う。

防災社会システム研究分野

安全で安心な社会の形成を目指した総合的施策を合理的に策定・実施するためのマネジメントシステム構築の方法論に関する研究を実施する。特に、社会・経済システムと災害過程との相互作用の解明、リスクコミュニケーションの促進のための方法論構築、参加型防災計画の支援のための情報システムの構築を通じて、災害に強い社会を実現するための防災システムを探求する。

2. 現在の教員構成

	【教授】	【准教授】	【助教】
都市空間安全制御研究分野	鈴木 祥之	(選考準備中)	
都市防災計画研究分野	田中 哮義	(選考中)	
防災技術政策研究分野	寶 馨	(今回公募)	佐山 敬洋
防災社会システム研究分野	多々納裕一	畑山 満則	

なお、当研究部門は、附属巨大災害研究センターとともに総合防災研究グループを構成し、さらに広い枠組みでの研究教育を推進している。京都大学防災研究所の詳細については、下記ホームページを参照されたい。 <http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp>